

## 2019年9月度（第370回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2019年9月19日(木) 14:00～17:15

開催場所：東京大学

参加人数：10名

内容：東京大学附属図書館（総合図書館と別館、医学図書館、薬学図書館）の見学

記入者：旭化成ファーマ 廣谷 映子

東京大学総合図書館と医学図書館および薬学図書館の見学と各図書館の担当者から図書館や利用者案内・講習会等について説明を受けるとともに意見交換をした。

総合図書館の改修は2010年に検討を開始し、2013年に着工、2017年に別館が竣工しライブラリープラザがオープン、次いで2018年に本館中央エリアが改装オープン、2020年の改修工事完了に向けて現在も作業が進められている。

見学は総合図書館（本館と別館の地下自動書庫とライブラリープラザ）、医学図書館、薬学図書館を回った。ライブラリープラザでは担当の方から図書館の概要や改修について紹介いただいた。医学図書館と薬学図書館では担当の方や全学を対象にリテラシー教育を行う方から講習会や利用者説明、導入しているデータベースや電子リソースなどについて説明いただいた。

総合図書館は館内に彫刻や文物もあり歴史を感じさせる。地下の自動書庫の上であり明るく落ち着いたあるライブラリープラザは噴水の真下という感覚が湧かない開放的なスペースだった。医学図書館と薬学図書館もそれぞれに専門図書・雑誌が閲覧スペースとともに提供されている。利用者向け講習会の担当者の方と意見交換できたことも有意義であった。

このような機会をご提供いただいた図書館担当の皆様と見学会全般をアレンジくださった中村様に心より感謝申し上げます。

### 1. タイムテーブルと配付資料

#### 【タイムテーブル】

- ・ 14:00～15:30 総合図書館 本館の見学  
→別館の見学  
→別館ライブラリープラザ内で概要説明、質疑応答
- ・ 15:30～16:15 医学図書館 見学
- ・ 16:15～17:15 薬学図書館 見学  
→薬学部講習会会場にて薬学図書館スタッフと講習会担当者と質疑応答

【資料】見学会PPTハンドアウト、案内資料各種（総合図書館紹介リーフレット、東大図書館マップ、建築・文物マップ、総合図書館別館紹介リーフレット、医学図書館案内（三つ折り）、薬学図書館案内（三つ折り）、デジタルアーカイブ事業について（三つ折り）

### 2. 総合図書館

- ・ 明治10年にできた図書館が関東大震災で建物・資料とも燃えてしまったことを受け、ジョ

ン・ロックフェラー・Jr.氏からの寄付があり昭和3年に再建された。寄付は当時の金額で400万円（現在の100億円に相当）。外観は書物を立てたようにも見えるデザインとなっている。

- ・総合図書館は図書が129万冊、雑誌2万種。駒場キャンパスは図書11万冊、雑誌7千種、柏キャンパスは図書45万、雑誌2万4千種（自然科学系の雑誌バックナンバーなど）。別館地下の自動書庫には30万冊（許容は300万冊）。全学（部局含め計30の図書館・図書室）で計960万冊。
- ・別館（地下）に自動書庫があり本館カウンターへ自動でラックが運ばれ担当者が貸出の対応をするが、本館の開架は館内に複数の自動貸出機があり各自が貸出処理できる。
- ・1Fの記念室はかつての来賓室で現在はPC室として使われていたが工事期間中のための暫定配置とのこと。このほか図書事務室は別棟（プレハブ）にあり、本来は会議室である場所にも書架が並んでいた。まだまだ工事中である。
- ・分類はNDC（和）とDDC（洋）とを併用している。書庫は独自分類となっている。
- ・改装は耐震・老朽化対応のほか、新図書館計画の理念として、①電子図書館との融合、②世界最高水準のアジア研究図書館としての整備、③国際化の対応、④日本の学術文化発信、⑤出版文化の公的基盤となることを掲げてきたとのことである。
- ・別館地下書庫の真上（広場にある噴水の真下）にライブラリープラザを設置している。ライブラリープラザは交流・イベントの場であり、壁面は全面がホワイトボード。天井に角を面取りした板が放射状に照明の下に宙に浮いた状態で並べられており、照明の明かりもやさしく届く。その板のためか地下スペースだが音の反響や共鳴も無い。天井中央の噴水部分が透明で外の明かりが漏れて板に反射し、室内に届く日差しは柔らかい。・デジタルアーカイブ事業は機関リポジトリとの棲み分けを行っており、学内の学術資産、各部局や研究室で作成されたデータを扱い、公開している。デジタルアーカイブで公開するメタデータについて、全学的な規則は定めていないとのこと。

### 3. 医学図書館

- ・1961年に日本における近代医学のモデル図書館として開館した。
- ・医学書はNLMC、非医学書はUDC分類。
- ・1Fフロアの閲覧・PCスペースのほか、地下1階から地上3Fの書庫がある。製本雑誌などが置かれている。1980年以前の外国雑誌など10万冊ほどは柏図書館に移動しているとのこと。
- ・洋雑誌のほとんどがオンラインジャーナルのため配架スペースは和雑誌と比較すると非常に少ない（雑誌全体の1/6程度だった）。
- ・利用者教育として文献検索PubMed説明会や論文の書き方、統計について、プレゼン方法などを教員の方とコラボで実施することもある。年に10回程度実施。ガイダンスは年に7回程度実施。春、秋、進学生や留学生など向け。
- ・導入している医学系データベースはEBSCOとOvidのMEDLINE、CochraneLibrary、医中誌Web、今日の診療Web、UpToDate、CINAHL（EBSCO）、最新看護索引Web、CurrentProtocols、メディカルオンラインなど（以上、利用案内の掲載より）。

#### 4. 薬学図書館

- ・比較的新しい建物で平成8年に竣工、1Fが飲食可能な交流スペースで学生が勉強や議論するのもにも使われる。2F・3Fが書架・閲覧スペース、4F・5Fには閉架書庫や情報室（学生用のパソコンルーム）などがある。
- ・分類はNDCをベースに、薬学関係は独自分類としている
- ・薬学図書館の情報室で講習会を終えたリテラシー教育担当スタッフの方から説明を受け意見交換をした。

#### 【リテラシー教育について】

- ・99年にできた職務担当で全学を対象に講習会等を実施している。現在の担当者は2名。
- ・通常は本郷キャンパスで用務を行っているが、4月は新入生教育のため駒場キャンパス出向くことも多い。
- ・講習内容はディスカバリーサービス、各種データベース、文献管理ツール等。
- ・定期講習会のほか、各部局に出向いての出張講習会も実施している。出張講習会では、より当該部局のニーズや研究シチュエーションに沿ったデータベースや検索キーワードの選択を行っている。
- ・必要なスキル（資格）は？ との質問には「特にないが、まずはデータベースへの関心や知識を深めること。」「大きな声でしっかり伝わるように話すことが大事。」
- ・講習会資料GACoSに掲載しておりPubMed新画面の補足説明も掲載中とのことだった。  
(<https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/text.html#igaku>)

#### 次回以降の予定

10月 PubMedについて（INFOPRO2019より「MEDLINEに収録されている国内医学雑誌の経年分析について」、リニューアルに関する話題）

11月 休み

12月 PubMed勉強会（MeSH改訂とリニューアルについて：公開形式での開催を予定）

以上